

☆私の意見

# 開港120年祭を

## みなどの

## ルネッサンスに

松浦 勢一

△神戸市港湾局長△



港湾の技術革新は、日進月歩です。だから、あまり先のビジョンは、なかなか描きにくいところがあります。現在、神戸市では、昭和七十年までの港湾を考える、「神戸ポートルネッサンス」と称した、港湾計画を策定しております。

明治時代に造られた埠頭が、昭和40年代からのコンテナ化の急ピッチな進展により、時代のニーズに合わなくなってきたおり、今や港の再開発が焦眉の問題となっています。港湾の新規開発と既存施設の再開発を同時に進める、そういった意味で「ルネッサンス」という言葉を使っています。また、これまでの港湾は、どうしても物流が中心になり、ともすると、市民との関わりがありや、港湾文化などの面では、立ち遅れていた感があります。これからは、単に貨物を追いかけるだけでなく、港湾を観光のポイントにしたり、港湾に関する文化づくりの拠点にしたい。「ルネッサンス」には、そういう思いをも込めているわけです。

今まで、臨港線が市街地と港湾地域とを南北に分断していたために、市民と港が物理的に隔絶されました。しかし、この四月には、待望のメリケンパークが完成します。一方では、かつて、ハシケ荷役が行われていたため、港は危険だというイメージがあったのですが、今は、それもなくなり、非常に明るい、カラッとした雰囲気になっています。

横浜では、港と隣接した山下公園が市民の憩いの場として親しまれていますが、神戸のメリケンパークは、それを凌ぐものになると期待しています。

また神戸は、これまで港湾産業で栄えてきたのですが、これらの企業は、今、厳しい環境におかれています。年来の経済不況で、ややもすると沈滞ムードに陥りがちですが、この開港一二〇年祭をきっかけに、不況風を一気に吹き飛ばしたいですね。また、これが港の体質改善への、一つのスプリングボードになってくれればと願っております。

(談)

★月刊神戸つ子26周年記念文化賞／第16回受賞者発表

# BM ブルー・メール賞

副賞各拾万円  
新谷琇紀制作  
海の女神ブロンズ像

神戸の新鮮なイメージ創りをつづけて来ました月刊神戸つ子は、この三月号で創刊26周年を迎えた。これもひとえに皆さま方の暖かいご支援の賜と厚くお礼を申しあげます。

小誌は創刊10周年を機に、神戸の文化を推進するためには文化賞「ブルー・メール（青い海）賞」を設定いたしました。本年、第16回を迎え、各部門別に選考会を開き、左記5人の方に賞をお贈りすることになりました。副賞には地元企業のご協力により各部門の受賞者に賞金拾万円と記念品（彫刻家新谷琇紀氏による海の女神のブロンズ像）が授与できることとなり、心から感謝の意を表します。

これからも地域社会の中から世界に通じる文化を育みたく、力いっぱい努力してまいりたいと思います。今後ともご支援のほど、よろしくお願ひいたします。

△授賞式は4月7日（火）午後6時からサンボーホールで行います

## □文学部門

委員 漢考



山西 史子

△作家▽

島 島

京子・川端柳太郎・杜山 悠

悠

心の隅にわだかまりながら、今までだれも気づかなかつた母親への怨念が鋭くえぐり出されている。しかも、それを書くことによって、作者は母の愛の片鱗を発見し、変身した。作者の生きざまも巻き込んだインシェイシヨンの物語である。

△川端柳太郎▽

## □音楽部門

委員 漢考



中西 覚

柴田 仁・小石 忠男・出谷 啓

中西覚氏は作曲家グループ「たにしの会」の中心として活躍され、特に昨秋「中西管弦楽作品展」でも改作発表された「原爆を詠める七つの歌」は感動的なものでした。教育家としての神戸への貢献度も高い人です。

△柴田▽

## □美術部門

委員選考

赤根 和生・増田 洋・草野 拓郎



## □舞台芸術部門

委員選考

松原 政祐

△画家▽



## □ファッショントレーディング部門

委員選考

楠本 喬章

△落語企画▽

佐野 漣・箕・名生 昭雄・岡田 美代

△増田 洋▽



## □書道部門

△書家▽

望月 美佐

△小泉美喜子▽

動の書、くらしの書など望月さんの感性とエンターテイナー性は、他の追随を許さぬ華麗な“書の世界”を創造している。又“文字を書る”と題した昨年の東京・大阪のショーアーは、ファッショントレーディングとして世界に“書”が飛躍した。

### ★ブルー・メール賞協賛企業

財団法人 井植記念会 株式会社 大丸神戸店  
UCC上島珈琲本社 株式会社 太陽神戸銀行  
オールスタイル㈱ 田崎真珠株式会社  
神戸地下街株式会社 日本たばこ産業株式会社  
株式会社 神戸風月堂 株式会社 ノーリツ  
株式会社 シヤルレ バンドー化学株式会社  
神栄石野証券株式会社 株式会社 ユーハイム  
角南商事株式会社 株式会社 ワールド  
株式会社 そごう神戸店

△社名50音順▽

戦後日本の具象画家は、抽象主義の波にのまれ、かなり重度のコンプレックスに悩んでいたが、近年新世代が美術界に参加し、再び具象画が見直されている。松原政祐もその一人。「生命への畏敬と親愛」をテーマに、具象画の魅力をみごとに甦えらせていく。



*Juchheim's*

For single and Ultra Premium  
Noblesse au Meille  
Since 1881



## WHITE DAY

ちょっと気どってホワイトデー

日ごろの感謝をこめて贈るなら、ちょっと気どってみるのもいいものです。3月14日、ホワイトデーをお忘れなく。

✓ ユーハイム

# ESCORT DINNER



気持ちを言葉で伝えるのは  
むづかしいけれど一  
歩をはさんで向  
かいあえば、笑顔  
がこぼれて  
きます。

2/13 fri. …… 3/15 sun.

スカイレストラン・エリートセブン・ステーキハウス・  
コモ・石庭・白扇・海風飯店・六甲オリエンタルホテル  
スカイレストランで実施中です。

女性だけにプレゼント

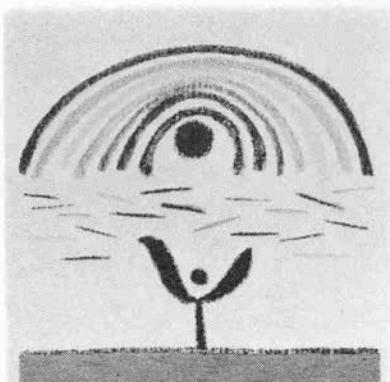
期間中、エスコートディナーをご利用の女性に、  
素敵なプレゼントを  
もれなくさしあげます。



オリエンタルホテル  
神戸市中央区京町25 ☎(078) 331-8111

# 想

# 隨



絵／立岡 佐智央

## 将来の神戸への道

直木 太一郎

△神戸倉庫相談役▽



西向け神戸。そこに播州平野あり淡路島がある。

だから言えど、これまで関西を一つとして計画されて行なわれたものにうまく成功したものはない。戦後すべてが東京へ集中されるのを見て、それを防ぐため首都圏に對し、関西として京阪神の都制や三府県を合併した道州制が提議されたが、しりぞけ

られ阪神ポートオーネリティもうまくゆかなかつたが、これは行政の壁が厚かつたからである。関西という名のつくものでうまくいっているのはあまり見当らない。

関西新空港はどうであろうか。これもすでに大阪空港存続の声も出ているが、そうなるとその意義は半減して前途も余り芳ばしくない。

現在首都圏は、ほぼ一色に塗りつぶされて浜ツ子の影も薄くなっているが、こちらでは京阪神の三色ははつきりと對恃している。

そうなるとそれは京阪神そ

れぞれの都市に住む人々の質がちがうのが原因であるから

神戸もこれからは独立歩を覺悟しなければならない。

一時いわれていた、六甲山文化を甦らせて広く西に拡大し、播州平野に神戸の空港を設け、淡路島をその樂園とする新しい神戸の都市計画が必要となる。ここは沿岸地帯を除くと公害の最も少ない地域であり、同じ県門であるから行政の壁も余りなく実現可能である。そうなると、ともかく東京へ大阪へと東に向きやすい神戸の人々の目をもつと西へ向けなければならない。

創立二六年を迎える「神戸っ子」も、新しい使命も自覚して創立当初同様の清新の氣の張る編集を続けてほしい。

## 母なる愛に祈りをこめて

宮崎 三千子



神戸に生まれ、神戸に育った神戸っ子。

そんな私が神戸を愛し、神戸に住んで思うこと。『母な

る海と山”に恵まれ、空の明るい神戸は、今、文化の華の魁となる時ではないでしょうか。

あのアフリカ大草原に育まれてぬくぬくと繁殖した象、その他多くの動物たちの足跡は、今砂漠……。

我が国をも含め、今世紀の経済戦争を勝ち抜いた人々が、彼等の子供たちに与えた、ぬくぬくと見える環境は、まるで心の砂漠……余りにも物質的に貪欲で背筋が凍る思ひです。ごく普通の結婚をし、同時に主人の両親と同居した“奥様は魔女でした”と言いたいところですが、そうはいきません。御想像にお任せします。

さて子供たちが大きくなるにつれて、マスコミ乱過、教育産業の生産地獄等々に時代の渦に呑まれて行くのを、手をこまねいてはいられません。魔女ならぬ身の悲しさ、ウインク一つじゃどうにもならないわ。

それについても、義母はもう八五才、何分氣丈な明治の女なれど身は病を気にするおぼつかなさ、それでも我が子

を思い底う様は、未だに目に入れても痛くないらしく、全く尊敬脱帽の他ありません。

しかし、我々はもつと広い母なる愛を、今わが子を通して世界に向けなければならぬ時だと思います。あらゆる経済戦争、宗教戦争が、弱者や子供たちを、もうこれ以上犠牲にしてはなりません。

大いなる母の慈愛が、天に届き地を覆うよう、精魂込めた祈りで絵を描きたいのです。私が生活の片手間に描いた小作品を、作品集(「心」として出版しました。その中の冒頭の詩画に「心」と言う一編があります。

人はよく道に迷うもの、そんな時、何故か徳兵衛さんと言ふ最も日本の名の神様らしき人との対話です。

徳兵衛さんや徳兵衛さんや今見たものは夢かいな  
何で夢なもんかいな  
夢の中にも現があつて  
現の中にも夢がある

根の上だろうとお構いなしに根を降すし、北国でいえば雪みたいなもの、5、6月頃の草の勢いときたら、『ミドリの雪』っていう位あつという間に道だつて何だつて消してゆくんだから。

徳兵衛さんや徳兵衛さんや今聞いたことは嘘かいな

何で嘘なもんかいな  
嘘の中にも誠があつて  
誠の中にも嘘がある

徳兵衛さんや徳兵衛さんや

今あつたことは幻かいな  
何で幻なもんかいな

幻の中にも真実があつて  
真実の中にも幻がある

## 泥ンこ

立岡 佐智央

（画家）

## I LOVE KOBE

立岡 佐智央

「そりや、自然と直に向き合うって厳しいです。雨が降つたら降つたでひと仕事、風吹いたら吹いたでおちおち寝てもいられない、自然ってのは生きもするし殺しもするんですね。たとえば草なんかなばつておけば家ン中だろうとお屋根の上だろうとお構いなしに

一番強いのやつぱり植物でしうね。みんな土にしちゃ

いますから。

まあとにかくアトリエ探し

てこの山懐の我愛すべき水車

小屋に辿り着いたんだけど、

同じ神戸でもすいぶん違う

ね、ここは。え、シンブン?

テレビ? もう11年になるか

な、見なくなつて。初めの数

年は烟ばかり耕やしてたね。

それまで街中で夜昼はつき

りしない生活だったでしょ。

ここに来たころ毎日朝が待ち

どおしくてね。ボロ屋のトタ

ン板のツブツブ穴を通して朝

日がサーと射し込むんです

ね。無数の光のシャワーにな

つてね。それは美しいもので

した。そして朝から晩まで烟

ばかりしてた、その頃。烟で馬



海文堂ギャラリーの個展にて

鈴薯なんか穫れると、もうメチャクチャうれしくてね。メ

ークインだつたけれど美しくてね、黄金色なんですよ。

真ッ暗けの土の中からほん

とうに黄金がザックザク出て

きたんだつて錯覚する程です

よ。そんな時はひとりで小躍

りしたもんです。ばかみたい

な話だけれどすかりうし

くてね、ひと鍬掘るたんびに

胸ドキドキですからね。この

とれたてを丸茹でにして食べ

るとそれが又おいしいもの。

ぽつかり割つてフウフウいい

ながらバターとか塩つけて

ね。そして、思いましたね、

子どもたちに本当に伝えなき

やいけないのはこの感激だな

あ、つてね。この"イモの味"

さえわかりや、他はどうだつ

ていいや、つてパクパクやり

ながら思つたものですよ。

冬になるとマキ採りです。

ダルマストーブだから寒けり

やヤマからマキ採つてくるし

かないといっくみ。

たいがいマキ割りなんかし

ているうちに体中がボカボカ

してくるんですね。そして

ね、山の水を飲み、裸の炎に

手をかざし、うすくまつてね、

土にまみれていると、10年程

たちましてね、急に、両の足

で踏みしめている自分の足元

見て、"こりゃ俺の大地だ

あ"ってワアって叫びたいよ

うな気持ちになりましてね。

それからですね。自然の恵み

だなあって、しみじみと嘆み

しめながら自分の絵に水だと

か火だとか、ほんとうの生命

だとか求めだしたのは……。

それからうれしくて犬のフ

クスケ連れて月英(妻)と家か

ら埼玉まで歩いて行きました

ね。700キロばかり歩きまし

た。その旅から帰つてからか

なあ、自分の住んでる神戸つ

ていう"場"が気になりだした

のは。これはね、決して地元

感なんていうものじゃ全然な

いんですよ。ちょうどKOBE

つていうハタケでね、ころこ

ろ穫れた芋ッコの一ヶがボク

つていう感じ、に近くてね。

まだ泥んこの芋ッコがあつたん

だナ、ボクの I LOVE KOBE

つていうのは——多分。」

■絵本「たねのゆめ」立岡佐智夫作  
■絵本「魔女・マジヨンダ」立岡月英作  
福武書店刊

□ エツセイ

# 夫、この不可思議なるもの

田中千佳（作家）  
カット／西村 功



三十年も夫婦でいると、相手の考えていることが、手に取るように判るようになる。ところが、へえー、この人、こんなこと考えているのかと、新しい発見をすることがある。

マニラで三井物産の支店長が誘拐された事件には胸が痛んだ。そんな頃に、私にマニラに行く話が持ち上った。ある女性ばかりの会がマニラで開かれることになつたのだ。

政情不安、危険といわれればいわれる程、行きたくなってしまう。私は二つ返事で引き受けた。夫も、

「行きたければ行つたらいい」

と賛成してくれた。私の心はマニラに飛んでいた。「主賓演説はアキノ大統領なんだって。きっと素晴らしい会になると思うわ」

私はうつとりしていたが、その時、ハタと気が

ついた。もしかして、万が一ということもある。

「ねえ、誘拐されたらどうしよう」

私は甘ったれた声を出して、夫の顔をのぞき込んだ。嘘でもいいから、

「すぐに助けに行つてやる」

といってくれるのを期待していたのだ。

夫は澄した顔をして、

「ゲリラ側に、折角誘拐なさつたのですから、多少年は取つておりますが、そちらで存分に御处置下さい。返してりませんと返事するねえ」

といった。何ですつて？ 私は耳を疑つたが、夫は更に続けた。

「テレビや新聞がインタビューに来たら、『誘拐される度に高額のお金を払っていたのでは癖になります。誘拐が合わない仕事だと犯人側に思い知らせるために、私は妻をあきらめます。妻よ、世界平和を願つて、安らかに死んでくれ』ていつ

て、涙を一零流すんだ。途端に俺は世界のヒーローだね。フツフツ

夫は嬉しそうに笑つた。口措しさの余り、私は夫を抓りまくつた。

恥かし乍ら私は作家のはしくれだ。書かなければならぬのに、家にいると電話は鳴るし、訪問客はあるしで机に向つていられない。

「あー、もう嫌、この家にいたら何も書けない。作家としての私はこのまま消滅してしまう」少し大きさにぼやいてみた。それまで新聞を読んでいた夫は顔を上げると、

「田舎に小さな小屋を建ててやろうか。あそこなら、一日にバスが二度しか通らん所だから、誰も来んぞ」といつた。

私は嬉しかった。たとえ小屋でも、私の小説が書けるように建ててやろうなんて、やつぱりこの人は優しいんだ。夫の田舎は島で過疎地だから、私の仕事を渉るに違いない。

私はすぐに友達に電話して自慢した。

「彼つて心の底から私のことを思つてくれてるのよ。羨しいでしょ」

しかし、友達は冷静だった。

「それじゃあ、娘捨山じゃないの。あなたを田舎へ追いやつて、その留守に悪いことするつもりなのよ、きっと」

何と根性のひねくれた人か。私が夫に大切にされているのを聞いて、ひがんでいるのだ。あわれな人だと私は友達を軽蔑した。

ところが、その話を聞いた夫は、

「さすが読みが深いねえ。俺の本心バレてしまつたか」と、ニヤニヤ笑つた。私は、又、夫を抓りまくつた。

以前から、私はどうも夫がヘソクリを持つているらしいと気付いていた。給料は銀行振込みだから、みんな私の手に入っている。だが、何となく匂うのだ。

しかし、私はしみつたれた男は嫌いだから、夫が外でエエ恰好するためには多少のこと仕方がないだろうと思っていた。

先日、知らない銀行から電話がかかってきた。「まとまった額の普通預金がありますが、勿体ないですから、定期にして頂けないでしょうか」私はさりげなく残額を確かめてみた。

「〇百×拾万円です」

へえー、あの人私が私に黙つてこの金額。それは、ちよつと驚く程の額だった。よーし、帰つて来たらとつちめてやろう。私は手ぐすね引いて待つっていた。

銀行から電話があったことを聞いた夫は微動だにせず、

「端金だ。放つておいたらよろしい」

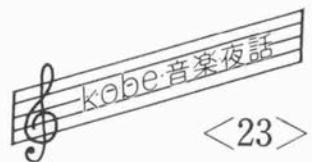
といった。その声の厳しさと勢いに呑まれて、私は何もいい出せなかつた。

二、三万の金にピーピーしている筈の夫が〇百

×拾万円を端金とは――

ああ、夫、この不可思議なるもの。しかし、面白くて離れるわけにはいかない。

<23>



# フワーツと、ボヤーツと…

中村茂隆  
神戸大学教育学部教授



神戸は文化不毛の地ーと昔よく言われた。今でもそれを口にする人に出くわすことがある。この人の人がいう「文化」とはいったい何なのだろうか。それは恐らく劇場や美術館へせつせと出かけてゆくことであり、一向にその方へ足を向けもしないし、いいものを与えてやつても食いついて来ないというのが「文化不毛」の状態なのだろう。もう一言付け加えると、この人達のいう「いいもの」とは中央がお膳立てしてくれる立派なメニューのことであり、学芸会風地狂言など、この人達の眼中にはいことは確かである。

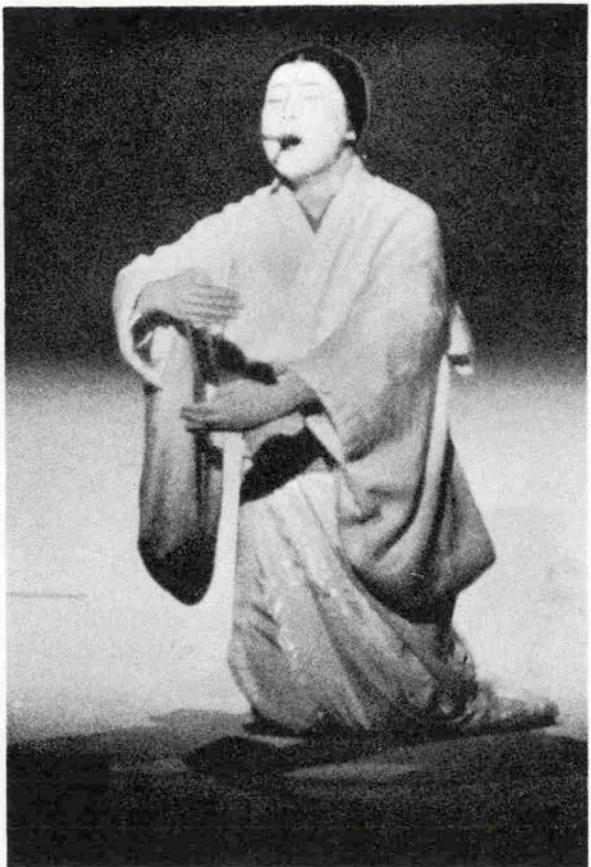
ところで、神戸ほど景色のいい、食べ物のおいしい、暑さ寒さもほどほどの土地というものは世界中探してもそうあるものではないと私は独断的に考えている。

そして、こういう土地に住んでいると、殊更に「文化」など求めなくとも「オモロイこと他にぎうさんある」わけだが、ワケ知りの人によると、これがまたよくないのだそうで、「文化」が成熟するためには環境がハングリーでなければならぬとおっしゃる。しかし私自身は暇さえあればボヤーツとしているのが好きなので、ハングリーになりようのない神戸のフワーツとした土地柄を結構気にいつている。さらにこういう環境の中でおかつて、かたおか・しろうさんの同名のひとり芝居が気に入つて「これをオペラにしたい!」と思ってから実現するまで十年かかっている。その間構想を温めていたと言えればカッコいいのだが、ズルズル後回しになつてしま

とかなんとか言いもつて、あんたも何や知らんが結構言われるが、私にとってはなりわいである大学の先生をマジメにやってゆくこと自体、大変努力の要ることなので、ほんとうは暇さえあれば寝たいのだが、面白そな企画が持ち込まれればついノつてしまふ好奇心の強さ、頼まれれば断れない氣の弱さ・優しさのために、ついに後悔と自己嫌悪にさいなまれながらも、やればやつたで何か楽しいことがあり、少しは賢くなつたような気もするので(私だって賢くなりたい)ズルズルとやつてゐる次第である。要するに学芸会風地狂言なのであり、ギンギラギンに意地をはつて「地元の文化向上のために」やつてゐるわけではない。(そんなオコガマシイ気持ちはさらさらない)。

こういう次第で、性來怠惰のために、ひとから機会や課題を与えられてアップアップしながらやつてゐるのが実情だが、時には自前の仕事もある。ただ、これがいつも後回しになつてしまふ。

「信太妻(しのだづま)」というオペラの場合も、歌舞伎や人形淨るりで有名な信太の狐・葛の葉の子別れを扱つた、かたおか・しろうさんの同名のひとり芝居が気に入つて「これをオペラにしたい!」と思ってから実現するまで十年かかっている。その間構想を温めていたと言えればカッコいいのだが、ズルズル後回しになつてしまふ



瀬野光子さんの「信太妻」(昭和60年10月大阪公演)／神戸新聞社提供

大阪の場合もそうだ

つたが、私は狭く限ら

れたクラシック音楽愛

好家の領域で、お客様

取り合いをするという

不毛な行為は避けたい

とつねづね思つてい

る。前回も歌舞伎や人

形淨りとしてよく

知つてゐるが、それが

オペラではどうなるの

かと、興味をもつてき

て下さった年輩の方

々、いつといオペラつ

て何やろかという全く

の門外漢の人々に声を

かけた結果、立ち見が

出るほどの満員になり、かえつて迷惑をかけてしまったが、そういう方々の新鮮な意見・感想が、今回再演する際の貴重な反省資料となつてゐる。もちろん専門家や通の人達の評価に堪え得るものに仕上げるよう努力していることは言うまでもない。

ほれほれ、結構ムキになつてやつとうやんか、やつぱり根はマジメなんやでーといわれそ�である。でも暇さえあつたらボヤーッとしていたい—やつぱり、これがホンネです。

#### △筆者紹介

神戸大学教育学部教授。作曲家。

最近作はオペラ「信太妻」のほか、創作舞踊「紅い雪」の音楽、合唱組曲「光れ中学生」「おーい春」などがある。著書は「はな唄と交響曲と」(神戸新聞出版センター)

まい、「いつたい、いつになつたら作曲する気やねん」と業を煮やしたかたおかさんがプリマドンナの瀬野光子さんを説き伏せ、劇場を確保し、私を追い詰めてくれたお陰で、やつと一昨年の十月、大阪で初演することができた。その年の大阪文化祭で賞をいただき、今度は神戸市民文化振興財団のお骨折りで、今年の十二月一日・二日、神戸文化ホールで再演されることになった。

同じ神戸でやるなら神戸の人達の手で実現したいと私は考えた。結果、演出の茂山千之丞氏とスタッフの一部以外九割がた神戸市・兵庫県在住者の手による公演が実現することになった。特に合唱はお母さんコーラスの方方に協力していただくなつていて。先に私は学芸会風地狂言と言つたが、それは地元の専門家達も含めて身近な人々が舞台にのつてゐるという親近感と、手作りの温かさを大事にしたい気持ちの表現であり、決して茶化して言つてゐるのではない。

## ☆出会いの旅

# 不思議なる世界に 目に見えぬ 念力の出逢い



角 卓

甲南女子大学教授・画家

私はその時々の出逢いをとても大切に、今日まで生きてきた。たまには思わぬ悪き条件のものもあったが、必ずばらしい出逢いばかりと解釈して今日の人生を築けた喜びを、しかと体でうけとめている。

この度のフランス展には2つのポイントをおいていた。1つには長い間の芸術至上からの友情であり師でもあるP・アイズビリーと作品を通しての語らいを。2つには角自身の仕事を伝統ある国の人々によって、どのように評価（うけとめ）をしてくれるものか。即ち日本の伝統的見地から今後の勉強の道しるべを発見したいためと念じて。

フランス展は前々から準備研究し、特に東洋の伝統の中で風土的空間と色彩とのからまりを考え試行錯誤しながらかきにかいた60余点をひっさげての発表。準備が大変なことは言語では語りつくせぬ問題があつたが、それもこれも又新しい出逢いの喜びの出来事で、今にしてみれば楽しかった想いしか残らず、さわやかなものでもあつた。

多くの人々に支えられ、特にフランス在日本大使はじめ、日仏文化協会会長、ヨーロッパ芸術アカデミー会長エールフランスの方々、ニース市長、アンティーヴ市美術館長、ニース大学芸術担当教授、シラクフランス首相、フランス文化大臣他。6年前は肝臓病でとても制作出来る状態ではなかつた肉体を、東京の鈴木先生により

人生を一変させてくださるような導きを得て、この大業なる催が出来たものです。病氣という出逢いが私には大きな価値として存在した。

こうして書いていくと何も抵抗なくスムースに事が運んだようを見えるが、ニースに於ける会場が二転三転で一寸困ったが MERIDIEN という大きな会場が市から提供され、むしろ二転三転の結果良き方向に展開した。

オープニングパーティには300人の人の渦、祝詞の来賓の方々の挨拶。私も前日に練習して仕上げたフランス語での挨拶。汗顏のいたり甚だしくも、日本マルセイユ総領事がなぐさめのおほめの言葉。無我夢中でセレモニーは終つたが、日本から持参した灘銘酒剣菱、我が日本の味、酒を味つてもらい日本の良き物の心を話しました。決して作品は満足いくものではないが、参会者一同絵の内容と色彩についての質問が集中、密教的観えざる世界の展開においての「朱と緑」の交錯する作品に魅入って讃嘆。

翌日は、はれてテレビに出演、我が伝統美について。私は讀岐、空海の地で生をうけその密教について話を。作品の上に制作していくことを強調するもテレビ故その反応は判らぬものの帰國後取寄せたビデオを見ながら、これも我が人生に大いなるものを与えられたと觀喜している。新聞にも大きく取扱われて自分の能力以上の評価に全くいたみいった。



モンスー公園乗馬風景／水彩（上）パリの展覧会場にて（右上）ヨーロッパ芸術文化アカデミー会長・ダガジオ女史と（右下）

会期中、巨匠P・アイズピリーご夫妻がご来場下さり  
「私も日本と似かよった風土（バスケット地方）で生れ、日  
本的色彩の豊かさにひかれ度々日本に足を運んだのもそ  
こにある」と語る。

9月はじめ、サン・マキシムにある先生の南仏のアト  
リエに伺ったが、広大な敷地に孫も含め10数人の大歓  
迎。すばらしい環境、日本の秋田、青森の民芸ののぼり  
ちよ・うちんが、天井高いアトリエに飾られ私にしきりと  
それを強調してみせられ、私としては全く逆輸入のよう  
な日本美再発見。

10月には、パリのアトリエに招かれ、フランス料理での  
歓談。日本公使刈田様、たまたまパリの街角での出逢  
い。伊藤誠様（姫路美術館副館長）と共にその場ですば  
らしい物を発見させてくださった。私が孫娘（パリ大学  
生）に持参した振袖の着物のご披露をかねての華やかな  
パーティ。

23年前初渡欧した時の出逢いアイズピリー師のご縁  
は、私にとって最大の師であり多くも教えて下さった恩  
人。ラフな作風の中にきびしい空間の計算された制作、  
日本人にも愛好者が多く親しまれている。

ここでもう1人、D. Aga Aijo女史、ヨーロッパアカデ  
ミー芸術文化会長との出逢い。アンティイヴ美術館での開  
催もこの方が取りしきつて下さり、日本に帰国前日、パリ  
のホテルに来られニューヨーク・メキシコ・フランスと総  
括的に私の作品を展覧会をしたいとの申入れ、さらにア  
カデミーの最高の称号までいただき、来年1月の来日を  
約束をして、神戸での再会をたのしみに胸ふくらむ思い。  
我が日本精神を造型し発表することに、アトリエで闘  
つている最中です。

#### ▲筆者紹介▼

1956（昭和32）年 光風会展特別賞受賞。日展特選（岡田賞受賞）  
1963（昭和38）年の初めての渡欧でフランス D. ALZPIKI に師  
事。以降1976（昭和51）年までの間に、4回の渡欧。人体構成  
と空間性などについて研究を重ねる。1986（昭和61）年、二  
ス、アンチープ、パリで日本風土をテーマにした3ヶ月間の個展  
を開催。神戸市東灘区在住。



# 自由に自己表現できる 魅力 — 現代音楽

## 岩崎宇紀さん

ピアニスト

いま「現代音楽」が話題になっている。そして、これに取り組んでいたのが岩崎宇紀さん。昨年は、結婚、神戸への移住、レコード出版などにかとご多忙のところを垂水のお宅におじやまし、お話を伺った。

——現代音楽に取り組もうと思われたのはどういう動機からでしょうか。

岩崎 大学三回生のとき学年試験の課題曲で、バルトークのエチュードを弾いた時からですね。聴いたことない和音や響きが新鮮で、ピタッと自分に合うものを感じました。

——現代音楽のほうが自己を表現できると、インタビューに答えてらっしゃるのを拝見ましたが、それはどういう意味でしょうか。

岩崎 わりに皆さんのが存知ない曲が多いからでしょうね。だからということもあるし、現代音楽のほうがいろいろな解釈が可能だと思うんです。たとえば、バッハやモーツアルトっていうと、ある程度演奏方法にも枠があるっていうか伝統があるんですね。その点、私にとつて現代音楽のほうが、人が知らない、手がけたことのないことをするという喜びがあります。こうじゃないかなと思って弾くのではなく、自分の解釈に確信を持って思つて弾くのです。

——現代音楽は古典（クラシック）の何を越えようとしているのでしょうか。

岩崎 この前も現代音楽のコンサートを聴きに行つたんですが、なまいきな言い方ですがどれを聴いても使い古されたもののように感じました。これからはやはり作家達の才能の方向にかかるとは思うんですけど、どう変わつて行くか、私にもわからないんですけど、たとえば百年後、はたして現代音楽と呼ばれているものが古典となり得るかどうかも疑問ですね。いま「古典」と呼ばれているものはそのまま残るだろうし、あるいは『現代音楽の古典』といった形で残るかもしません。

——現代音楽とくと「変わったもの」というイメージがあつたのですが、先ほど先生のレコードをお聴きして、そのロマンというか美しいメロディが失礼ながら意外でした。ただ、音楽というものは聴いていて楽しいものであるべきだと思うのですが、現代音楽の中にはそうでないものもたくさんあるように思います。

岩崎 まず、最初から頭ごなしに変なものと決めつけないでほしいですね(笑)。何かおもしろがるというか、変

昭和35年  
昭和57年  
昭和59年  
兵庫県伊丹市生まれ  
京都市立芸術大学卒業  
県立西宮高校音楽科講師となり  
日本現代音楽ビッグコンクールで優勝、アルバニア第1回日本現代音楽賞受賞

昭和60年  
アノン・ベルク・ライヴレコード「Just Starting Point」発表

な音がおもしろい、おかしいと思つてゐる人が多いみた  
い。それに私は、必ずしも音楽が楽しむなければいけな  
いとは思つていません。変だつた、騒々しかつたと思う  
人も多いだらうし、私自身演奏会へ行つて、必ずしもす  
べてが楽しめたということはありませんよ。

——どういう作曲家がお好きですか。

岩崎 まず最初に出会つたということもあって、近代の  
作曲家バルトークが好きですね。あとバーバー。彼はあ  
まりピアノ曲を残していないんですが、アメリカの作曲  
家でジャズっぽい粹な作風が気に入つてます。

——高校で音楽を教えてらつしやいますが、何かかわつ  
た教育方法でもとつていますか。また、今の高校生は音  
楽に関していかがですか。

岩崎 自分が教育を受けてきたように教えているだけで  
特別かわつた方法はとつてないつもりです。今の高校生  
はみんな、指ものすごく回りますし実にうまく弾きま  
すよ。ただ、単に弾くというだけでは中味がないといふ  
か、軽いという印象を受けるのも事実ですが。喜怒哀樂

が表に出ないんですよ。もう少し個性を出して情感を  
こめて弾いてほしいという気はしています。  
——神戸に住んで活動することで、何か感慨をお持ちで  
すか。

岩崎 九月の末に結婚して、それから神戸へ越して来ま  
したので、まだよくわかりませんね。とにかく静かです  
よね(笑)。海も山もいつしょに見えるのがうれしい。  
伊丹で生まれて、学校は京都で、神戸へ来てみると洗練  
されたシャレた街という印象を受けます。逆にものすご  
く下町もあるし、そういう気どらない雰囲気も好きです。

——音楽以外に興味のあることはどんなことでしょうか。  
岩崎 このごろ「主婦する」のが趣味です(笑)。今まで  
ただひたすらピアノを弾く生活で、全然家の事をしてい  
なかつたものですから。小さいころ母が「ラジオ神戸」  
(今ラジオ関西)の劇団にいまして、その影響からか  
芝居を見るのもたいへん好きですね。

——これからぜひ実現させたいとお考えの企画、試みが  
何かござりますか。

岩崎 比較的皆さんが弾かない、  
近代及び現代の曲を系統的に集め  
て、あまり仰々しくない小さなサ  
ロンみたいな所で演奏してみたい  
と考えています。たとえば現代曲  
ばかりではなくて、バッハが好き  
なものですからクラシックとかい  
ろいろ組み合わせて、聞いていて  
おもしろいプログラムの企画を実  
現させたいですね。ただ、費用は  
かかるし適当な場所がないんで  
す。音響が良くてピアノが良くて  
かかるし適当な場所がないんで  
す。神戸にはまだありません。文化  
都市神戸にふさわしいそういう施  
設がぜひ欲しいと思います。



神戸開港120年祭△4月29日～5月17日▽

# 祝／月刊神戸つ子 26周年記念



山から海へわたる  
さわやかな風  
今、21世紀への新しい風が  
エキゾチック神戸から  
世界へ……。

絵／灘本唯人

株式会社 サザエ食品

代表取締役社長 戸島 和博

西宮市上大市四丁目一七一八  
電話(○七八)五二一六三二三

株式会社 ルックファイブ

代表取締役 村上 健

神戸市長田区西尻池町三一  
二四 電話(○七八)六四一一八四五一

三宮センター街連合会

会長 岸野 利男

神戸市中央区三宮町二丁目一〇  
一七 電話(○七八)三三一一三〇九八

三宮ターミナルビル株式会社

取締役社長 小西 真一

神戸市中央区雲井通八一一一二  
電話(○七八)二九一一〇〇五六

元町一番街商店街振興組合

理事長 延原 一松

神戸市中央区元町通二十三一一  
二〇 二九一三三一一七八五〇  
電話(○七八)三三一一七八五〇